

■社会貢献活動

項目	内容
<p>本学esports project所属の山口勇さんが4月1日より大阪府eスポーツ連合理事に就任</p>	<p>本学大学院総合情報学専攻デジタルアート・アニメーション学コース1年生で、esports project所属の山口勇さん（株式会社PACkage代表）が、2020年4月1日付で大阪府eスポーツ連合の理事に就任しました。大阪府eスポーツ連合は一般社団法人日本eスポーツ連合（JeSU）の大坂支部にあたります。日本eスポーツ連合は、日本国内全域を対象にeスポーツを普及・発展させていくことを目的に、各都道府県を統括する支部を設置しています。全国各地にeスポーツ振興の拠点ができるとして、多様なeスポーツ大会がそれぞれの地域で開催可能となります。また、多くの方がeスポーツに触れる機会を創出することで、eスポーツ業界全体の底上げにもつながります。山口さんが就任した大阪支部でも、地域におけるeスポーツの普及振興を目指し、地方在住の競技プレイヤーを育成するほか、地域におけるeスポーツ競技会を開催するなど、JeSUや団体、また経産省と連携して活動していく予定です。</p>
<p>BS11「京都浪漫 悠久の物語」（4月17日放送回）に建築学科の矢々崎教授が出演します</p>	<p>BS11の紀行ドキュメンタリー番組「京都浪漫 悠久の物語」（4月17日放送回）にて建築学科の矢々崎教授が出演し、京都市東山区にある知恩院の魅力を解説されます。是非ご覧ください！</p> <p>番組名：「京都浪漫 悠久の物語」 放送日：4月17日（金）20時00分～20時53分 番組内容：第50回「国宝・御影堂に輝き！～心癒やされる知恩院の大伽藍～」</p> <p>※放送日、放送内容は変更することがあります</p>
<p>新聞各社で兼宗教授と島袋特任講師の連載がスタートしました</p>	<p>3月25日（水）山陰中央新報「週刊 さんいん学園」を皮切りに、10紙以上の新聞社で、ICT社会教育センター長代理の兼宗教授（工学部電子機械工学科）と島袋情報教育特任講師のインタビューが掲載されました。また、兼宗教授と島袋特任講師の連名で10紙以上の新聞社で連載がスタートしました。「プログラミング はじめの一歩」と題し、プログラミング教育について約1年間にかけて連載される予定です。※記事の著作権は各新聞社に帰属します。無断転載不可。ウェブサイトに掲載承認済みです。</p>
<p>兼宗教授と本学大学院生が情報教育についてのオンライン研修を行いました</p>	<p>6月16日（火）に、鳥取県の小学校、中学校、高等学校の教員13名を対象とした研修で、ICT社会教育センター長代理の兼宗教授（電子機械工学科）と本多佑希さん（工学部研究科博士後課程制御機械工学専攻 兼宗研究室2年生）が「情報活用能力を育成する授業づくりについて～『コンピュータとプログラミング』の単元を通して～」と題し、講義・実習をオンラインで行いました。</p> <p>研修前までは、兼宗教授が小学校からどのようにプログラミングを取り入れられていき、高等学校ではどのようなプログラミングが授業で扱われるかという講義を行いました。研修後の実習形式では、本多さんが講師役を担当し、兼宗教授が東京理科大学と明星大学とで共同開発したオンラインプログラミング環境「Bit Arrow」を使い、文部科学省の教員研修資料でも採用されているプログラミング言語「Python」や、兼宗教授が教育用に開発したプログラミング言語「ドリトル」を用いてプログラミングを学習しました。</p>
<p>withコロナ時代におけるeスポーツによる地域課題解決に向けて連携協定を締結（PACkage）</p>	<p>本学大学院総合情報学専攻デジタルアート・アニメーション学コース1年生で、esports project所属の山口勇さん（写真左）が代表取締役を務める株式会社PACkageが、2020年7月17日、神戸市、西日本電信電話株式会社兵庫支店と3者間で「withコロナ時代におけるeスポーツによる地域課題解決に向けた連携協定」を締結しました。</p> <p>eスポーツが新たなコミュニケーションやビジネスの手法としてなり得るか？その可能性を探り、地域課題解決・産業振興につなげる全国初eスポーツプロジェクトをスタートします。</p> <p>詳細は以下の関連リンクよりご確認ください。</p>
<p>KBS京都ラジオ「さらびん！キョウト」に由良教授が出演します</p>	<p>KBS京都ラジオ「さらびん！キョウト」にて、本日（8月12日放送回）から3週にわたってゲーム＆メディア学科の由良泰人教授が出演し、専門分野である映像制作などについてお話しする予定です。是非ご覧ください！</p> <p>番組名：「さらびん！キョウト」 https://www.kbs-kyoto.co.jp/radio/sara/ 放送日：8月12日（水）、19日（水）、26日（水）14時00分～17時00分 番組内、14時台、15時台、16時台にそれぞれ20分程 さらびん！パートナーとして出演予定 ※放送日、放送内容は変更することがあります</p>
<p>山口勇さんがWebラジオに出演しました</p>	<p>本学大学院総合情報学専攻デジタルアート・アニメーション学コース1年生で、esports project所属の山口勇さんが中島賢一さんパーソナリティのWebラジオに出演しました。中島賢一さんは、福岡eスポーツ協会会長・西日本電信電話株式会社エンターテインメントプロデューサー・株式会社NITE-Sports取締役を務めており、国籍や年齢、性別を問わずに楽しめるesportsの魅力や様々な角度と視点から応じています。</p> <p>Webラジオでは山口さんが代表を務める「株式会社PACkage」の設立経緯から、今後成し遂げたいことまで、esportsについて赤裸々にトークセッションを繰り広げています。以下の関連リンクから、視聴いただけます。皆さま是非ご確認ください。</p>
<p>駅前キャンパスで合同自衛消防訓練を実施しました</p>	<p>8月31日（月）、駅前キャンパスにおいて、隣接する寝屋川市立地域交流センター「アルカスホール」と合同で自衛消防訓練を実施しました。今日の訓練は、駅前キャンパス1階のゴミ置き場で火災が発生したことを想定し、教職員とアルカスホール担当者がキャンパス前広場に避難するという内容で実施されました。参加した教職員たちは、自身の安全を確保しながら担当するフロアの避難を指導、全員の避難を確認し自衛消防本部へ報告しました。その後、アルカスホールの職員と合同で、水消火器を使用した消火訓練を行いました。消火の仕方や消火器の使い方のクイズを交え、実際に水消火器を使った模擬消火を体験。学内や街中で見かけることはあっても使用方法を学ぶ機会はなかなかないため、非常に良い経験となりました。今日の訓練により、火災発生時の適切な行動について確認することができ、教職員の防災意識の向上につながりました。</p>
<p>「大阪880万人訓練」に伴う防火・防災訓練を実施しました</p>	<p>9月4日（金）、大阪府が実施する「大阪880万人訓練」に合わせて防火・防災訓練を実施しました。「大阪880万人訓練」は、伝達された災害情報を認識し、自分の身を守る行動や、災害時の備えの確認をすることを目的に、大阪府内で実施されるものです。本学では、震度6強の地震が発生、それに伴い1号館1階食堂より火出しと想定し、非常放送、初期措置、安否確認及び各建物1階までの避難、緊急災害対策本部の設置などの訓練を実施しました。その後は、緊急災害対策本部における安否状況の集約・報告や、施設設備の倒壊状況の確認・報告の訓練も行い、一人ひとりが防災意識を高める、非常に貴重な機会となりました。</p>
<p>四條畷市立公民館主催の官学連携講座で木子准教授が講師を務めました</p>	<p>四條畷市立公民館で開催された官学連携講座「～シルクロードからの贈り物～ 盤穴六の歴史・平安貴族の遊び体験」で、本学総合情報学部ゲーム＆メディア学科の木子准教授が講師を務めました。この講座は、古代路上遊戯の「盤穴六」の歴史やその魅力を学び、実際の盤を使った対局を体験できる講座で、3回にわたって開催されました。1回目は、古代路上遊戯である盤穴六の歴史や魅力についての講義を、2回目は平安貴族の遊びをイメージした盤穴六のワークショップを、3回目は盤穴六大会を行いました。盤穴六の祖型は紀元前3千年にエジプトで発祥し、シルクロードを通り、変化しながら7世紀に日本に伝わりました。盤穴六は平安時代に貴族の遊戯として選ばれ、ゲームとしてだけではなく、占いの要素も強いものでした。江戸時代に入り、遊びの要素が強くなりましたが、次第に衰退していったということも、映像を交えながら紹介されました。3回の講座を通じて古の世界を体験してもらうことができました。</p>
<p>朝日新聞に熊本大学文書館への資料寄贈に関する記事が掲載されました</p>	<p>9月16日（水）の朝日新聞 朝刊23面に、熊本大学文書館への資料寄贈に関する記事が掲載されました。9月15日（火）、本学の名誉教授である小田康徳氏（専門：日本近代史・公害問題史）が代表を務めるチツツ水俣病関西新設資料調査研究会（資料保管担当：本学）およびチツツ水俣病関西新設を支える会（代表：庄野久子氏）が管理・保管していた資料を、熊本大学文書館（館長：山田秀彦学部長）へ寄贈するための調印式を本学と熊本大学文書館の会場でオンラインで挙行されました。調印式では、本学からは山田学部長、大石利光学長、共通教育機構人間科学教育研究センターの平沼博博教授らが、寄贈する資料群を今後の調査研究に活かして欲しいと挨拶しました。※朝日新聞社に無断で転載することを禁じます。※20-3497 朝日新聞 2020.9.16 朝刊23面</p>
<p>帝塚山大学が所蔵する鬼瓦のデジタル化の共同プロジェクトを実施</p>	<p>帝塚山大学と本学は、2019年から帝塚山大学が所蔵する鬼瓦のデジタル化について、共同プロジェクトを実施しています。今回は、紀元前4世紀にイタリア半島の都市国家「エトルリア」の神像に用いられた素焼き粘土製のメデューサのアンティフェイス（屋根飾り）を、本学3D造形先端加工センターが高精度の3Dスキャナを用いて測定し、詳細なデジタル化に協力しました。</p> <p>ギリシャ神話に登場するメデューサは見た者を石に変える女性の怪物で、日本の鬼瓦と同じように、魔除けのために屋根に飾られたものと考えられています。帝塚山大学ではメデューサの威力で新型コロナウイルスの感染を食い、以前、本学3D造形先端加工センターがデジタル化した30データから型を製作して、メデューサのミニチュア（マグネット）を製作しています。</p>
<p>電子機械工学科の研究室が「CYBATHLON2020 Global Edition」に出場します</p>	<p>本学の電子機械工学科の研究室・小川研究室の学生・教員が、株式会社アルテウスと取り組んでいるRPhheel Projectが、11月13日（金）に開催される CYBATHLON2020 Global Editionのパワード車いす競技「OCURR-Techs」チームとして参加します。</p> <p>Cyathalon（サイバスロン）大会は、障がいを持つ方と選手となり、先端科学技術を駆使したアシスト機器を使って、日常生活に必要な動作でさまざまなバリエーションを乗り越えることを競う6種目で構成された国際競技大会です。機器を操縦する「パイロット」と呼ばれる障がいを持つ方と技術者は、開発の段階から協力してレースに挑みます。</p> <p>今回の大会は新型コロナウイルス感染症の影響で初のリモート開催となりますが、世界21か国から55チームが参加する予定です。スイスチューリッヒ大会本部と各都市をインターネットでつなげて実施。各チームのレースの様子は後日動画配信されます。本学は「OCURR-Techs」チームとして、東京会場である日本科学未来館にて「パワード車いす競技」に参加します。</p> <p>RPhheel Projectは昨年5月に「Cyobathon Powered Wheelchair Japan Series」に出場以降、本学園の持つ技術と知識を社会に還元するとともに、障がいを持つ方が日常生活をおくるために必要な動きをアシストする最先端技術の進化に貢献するという目的も活動を続けています。</p> <p>▼「CYBATHLON2020 Global Edition」開催概要 開催日時：11月13日（金）14:30～17:00 パワード車いす競技 ※東京会場で3チームが競技を行います 11月14日（土）14:00～16:00 チームによる公開デモンストラーション 開催場所：スイスチューリッヒ（大会本部）を含む世界4都市（日本は東京で開催） 動画配信：11月14日（土）21:00～22:00 パワード車いす競技</p> <p>※会場での観戦には事前予約が必要です https://stiffcetokyo.ch/registration_cyathalon_2020_tokyo</p> <p>※動画配信の詳細はこちら（英語のみ） https://cyathalon.ethz.ch/en</p>
<p>機械工学科の学生が第2回実践加工技術量チャレンジカップ選手権で銀賞を受賞しました</p>	<p>一般社団法人実践教育訓練学会が主催する「第2回実践加工技術量チャレンジカップ選手権」で、工学部機械工学科4年生の方福亮太郎さん、田中雅大さんが銀賞を受賞しました。</p> <p>この選手権は、教育機関で保証できる製品加工の最高表現性・真直度・平面度を明らかにするための競技会です。製品形状は直径30×15とし、銅材であれば種類や加工方法・後処理は自由です。今回の受賞は、研究室のひとつのテーマである機械加工や手仕上げ作業についての技能の技術化の研究成果です。学生は、加工経験が浅いため、勘・コツと言われる作業をデータ化（数値化）して臨みました。今後は、これらのデータをさらに検証して卒業研究に結び付け、学会論文として投稿することを目指します。</p>
<p>神戸新聞に環境科学科 高岡教授が洲本実業高校で出前講義を行った記事が掲載されました</p>	<p>10月22日（木）の神戸新聞 朝刊23面に、工学部 環境科学科の高岡大進教授が洲本実業高校で出前講義を行った様子が掲載されました。記事内では、10月21日（水）に行われた燃料電池や新エネルギーについて学ぶ出前講義の様子を紹介しています。ぜひご覧ください。</p> <p>※神戸新聞社に無断で転載することを禁じます ※神戸新聞 2020.10.22 朝刊23面</p>
<p>兼宗連ICT社会教育センター長代理が「第5回関西教育ICT展」で講演を行いました</p>	<p>10月30日（金）、ICT社会教育センター長代理の兼宗教授（工学部電子機械工学科）が「第5回関西教育ICT展」で講演を行い、「プログラミング教育の課題と展望」をテーマに、小学校から高校までのプログラミング教育について、各段階での教育事例と考え方を解説しました。</p> <p>当日は大変多くの方々にご講演いただき、プログラミング教育の注目度の高さが伺えました。</p> <p>本学では、これまで培ってきたノウハウをベースに全国の初等中等教育におけるプログラミング教育をサポートするため、新たに「ICT社会教育センター」を設立し、地元寝屋川市や四條畷市、守口市、大阪府をはじめ近畿圏の各教育委員会と連携協定を締結し、超スマート社会（Society5.0）の到来に備えた人材育成に貢献しています。</p>

<p>esports projectの学生たちが主催する「Rainbow Six Siege University Frontier」が開催されました</p>	<p>10月31日（土）、11月1日（日）に、esports projectの学生たちが主催するオンラインゲームの自主イベント大会「Rainbow Six Siege University Frontier」が開催されました。 https://twitter.com/ocuesports/status/1322701095752279217?s=20</p> <p>今回の「Rainbow Six Siege University Frontier」は、先日esports projectで新規部門として設立された「Rainbow Six Siege（レインボーシックス シーズ）」における、全国の大学生、専門学生が参加できる大会です。</p> <p>学生たちが主催する久しぶりのイベントとなり、今年参加したばかりの1年生スタッフも先輩の指導のもとで参加し、大会運営や進行の他にも常設スタジオで動画配信の機材を使って中継・ネット配信を行うなどイベントを盛り上げました。また選手としてオンラインからも多くのesports projectの学生が参加いたしました。</p> <p>なお11月1日（日）に配信された、エキシビジョンマッチと決勝戦の様子は以下のアドレスよりご覧頂けます。 https://youtu.be/p080goBuSz1?i=503</p> <p>規模では新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、距離を取りつつ先輩が新人スタッフを指導する様子など、感染拡大防止を意識した取り組みも目撃することができました。本esports projectでは引き続き感染拡大防止対策に取り組むとともに、情勢を鑑みながら、オンライン、オフライン共に、esportsで学生が活躍できる形を引き続き検討していきます。</p>
<p>「なわフェス'20」を開催しました</p>	<p>11月7日（土）、「なわフェス'20」を開催しました。</p> <p>「なわフェス」は、学外の方々に本学のことを知ってもらうことを目的に始まった四條畷キャンパスの一大イベントです。11回目を迎える今年は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染状況を鑑み、オンラインでの開催となりました。初めての試みではありましたが、四條畷キャンパスイベント運営委員会の学生が中心となって、趣向を凝らした多様な企画を実施しました。</p> <p>毎年大気の声優トークショーも、今年はオンライン開催ということで、YouTubeでの動画配信が行われました。大気声優の木村 良平さん、吉永 拓斗さんを出演して、本学の紹介や、本学学生が制作したゲーム「にげろ！おにぎりくん」を体験していただきました。また、ゲーム体験企画として「にげろ！おにぎりくん」は一般公開され、ゲストのお二人も楽しんでくださったゲームを、視聴者の皆さんにも体験していただきました。声優トークショーは、最大同時接続が約770人と、大変多くの方に楽しんでもらうことができました。</p> <p>学生企画「文化系団体発表会inなわフェス2020」では、文化系クラブの活動紹介やパフォーマンスを配信。ナレーションは、トークショーにご出演いただいた声優の木村 良平さんが担当していただきました。</p> <p>例年とは違った形での開催になりましたが、多くの方にご観覧いただき、本学や四條畷キャンパスの魅力を知っていただく機会となりました。</p>
<p>特別授業「IoT時代の公共交通のためのデータサイエンス」を実施</p>	<p>本学は、みなと観光バス株式会社（本社神戸市）と公共交通の安全で安定した運行のための課題解決及びデータサイエンス教育の推進のため連携協定を締結しています。その一環として10月27日（火）、総合情報学部デジタルゲーム学科の上巻恒雄教授が、同社が運行管理する公共交通機関の実データを題材にデータサイエンスの特別授業をオンラインで行いました。</p> <p>同社は、運行中の路線バスから位置、エンジンやブレーキなど車両状態の詳細情報や運転手の健康状態まで記録できる遠隔監視可能な車載用データロガーを自社で開発し製品化しています。このDOCOR（ドココ）と呼ばれる仕組みを使って、中央運行管理センターで常時、同社のバス運行を見守っており、昨年度の特別授業では本学との共同で取り組んだ戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）の成果を中心に解説しました。</p> <p>今回はその後の取り組みとして、バスの加速度データなどから運転の快適性分析を行い、安全はもちろん快適なバス車内環境維持に活用するとともに、新しいタイプの非接触型脈波センサによる運転手の健康状態把握、車内カメラからの画像認識による乗降客数カウント、COVID19感染対策としてLIDARによる乗客の密度把握など、現在取り組んでいる様々な技術開発について、ゲスト講師である同社の亀谷昌弘氏にご紹介いただきました。また、バスを学ぶお孫娘向けに、デジタルサイネージで通信機能を高度した学習用端末の開発や、走行中のバスと停留所が位置情報や映像などを交換することで異なるバス交通の利便性の向上が期待できる取り組みについてお話しくださいました。安全で快適な公共交通実現のための様々な学習機種の取り組みについて、実際の写真や事例データを用いてわかりやすく講義いただき、これからの高齢化社会において安全で快適な公共交通システムをデータサイエンスが支えることの意義を学ぶことができました。</p>
<p>電子機械工学科の研究室が「CYBATHLON2020 Global Edition」に出場しました</p>	<p>11月13日（金）、本学の電子機械工学科の顕研究室・小川研究室、大阪電気通信大学高校の学生・生徒、教員が、株式会社アールテクスと取り組んでいるRPWheel Projectが、CYBATHLON2020 Global Editionに「OCUR-8Techs」チームとして出場し、6位入賞を果たしました。</p> <p>Cyathlon（サイバスロン）大会は、障がいを持つ方が選手となり、先端科学技術を駆使したアシスト機器を使い、日常生活に立ち足はかかるさまざまなバリアーを乗り越えることを競う6種目構成された国際競技大会です。</p> <p>今回の大会は新型コロナウイルス感染症の影響で初のリモート開催となり、世界21か国から55チームが参加し、スイスチューリッヒ大会本部と各都市をインターネットでつなげて実施されました。本学は「OCUR-8Techs」チームとして、東京会場である日本科学未来館にて「バード世界選手権」に出場しました。</p> <p>当初予定された5月のスイス大会の「バード車いす競技」では、世界12チームが参加登録を行いました。新型コロナウイルスの影響により当日のGlobal Editionでは、全7チーム（海外3チーム、日本4チーム）が課題に挑戦。新型コロナウイルス感染症拡大のたごの厳しい状況での挑戦でしたが、今回、大会に参加できたことは、本学園の持つ技術と知識を社会に還元するとともに、障がいを持つ方が日常生活をおくるための必要な動きをアシストする最先端技術の進化に貢献するという、大きな意味を持つと考えます。</p> <p>チームを応援してくださった皆さま、大変ありがとうございました。今回の経験を活かして、2024年Cyathlon Swiss大会まで「RPWheel Project」は活動を続けてまいります。今後の活躍にもぜひご期待ください。</p>
<p>兼宗教授が編著・監修に携わったSTE(A)M教育に関する書籍が出版されました</p>	<p>ICT社会教育センター長代理の兼宗准教授（工学部電子機械工学科）が他大学の先生方とともに編著・監修した「カリキュラム・マネジメントで実現する学びの未来 STE(A)M教育を始める前に」（株式会社翔泳社）が出版されました。</p>
<p>兼宗教授が監修・制作に携わったプログラミング動画教材（IPJS MOOC）が公開されました</p>	<p>ICT社会教育センター長代理の兼宗准教授（工学部電子機械工学科）が監修・制作に携わった、高校生・高校教員向けのプログラミング動画教材（IPJS MOOC）が一般社団法人情報処理学会から公開されました。</p> <p>兼宗教授は「3.モデル化とシミュレーション（Pythonを使ったシミュレーション入門）」の監修・制作を担当しています。</p>
<p>デジタルゲーム学科・ゲーム&メディア学科「社会プロジェクト実習」木村・由良班がゲームイベントを開催しました</p>	<p>11月28日（土）、本学総合情報学部デジタルゲーム学科、ゲーム&メディア学科「社会プロジェクト実習」授業の木村・由良班が、四條畷市民協働センターで自作のゲームを集めたイベント「なわのゲームを楽しもう！君はゲームの達人になれるか！」を開催しました。市内の小学生や市民が集まり、四條畷の歴史や文化をテーマとしたゲームを体験していただきました。</p> <p>木村准教授が指導するデジタルゲームチームは、南朝武市・楠正行（まさつら）の顕彰・伝承活動に取り組む市民団体「四條畷正行の会」の依頼を受けて、3年前から絵本製作やカルタ大会、ポスターセッションなどを開催。今年度は由良泰人教授の班も加わり、木村・由良班のプロジェクトで7人の学生が合同でゲーム制作に参加。「遊びを通して四條畷の魅力を知ってもらおう」とテーマに取り組みました。</p> <p>イベント当日は「キリシタン鬼ごっこ」や「COMEX収穫ゲーム」「なわで遊べるゲーム」「民話語り合わせトラップ」などさまざまなカードゲームを中心に8種類を展示発表。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、会場内では全員がマスク、手袋を着用、換気や人同士の距離に配慮するなど、徹底した感染予防のもとで市民らはゲームに興じました。</p> <p>兼宗准教授は「物理的・時間的な制約が多い中、正行の会代表の方からいただいたアドバイスをもとに学生たちは真剣に議論を重ね、ブラッシュアップを回ってきました。これらのゲームが学生や市民の方々が四條畷の歴史や文化を理解するきっかけになれば幸いです」と語っていました。</p> <p>また、木村准教授は「オンラインでコミュニケーションを取りながらゲームを制作することはかなり困難な作業でしたが、『今年はイベントに間に合わないかもしれない』と諦めかけたことも、しかし結果的には期日までに納品できたのは、学生たちが『クワイアランド（正行の会）や市民の皆さんの期待に応えたい』という気概と緊張感を持って真面目に取り組んだからだだと思います」と前向きな姿勢を高く評価していました。</p> <p>プロジェクトチーム発足当初から講義や校外学習を担当された「四條畷正行の会」の島谷昭治会長は「私もオンラインで何回か講義をさせていただいたがその態度、学生さんたちから熱い気持ちも伝わってきた。貴重な学びの機会をありがとうございました。楽しい学習環境でゲームを完成させてくれたことに感謝しています」と話され、学生やゲームに興じる子どもたちの姿を見守っていました。</p>
<p>産学連携で双方授業支援システム「Lectures」を開発しました</p>	<p>本学は、スカネット株式会社との共同研究により、教員と学生間の双方向授業支援システム「Lectures」を開発しました。</p> <p>■「Lectures」概要</p> <p>講義中、学生と教員はそれぞれの端末から「Lectures」に参加します。学生が講義のわかりやすさ・面白さの状況を数布団に表し、視覚的に教員に知らせる「リアルタイム授業評価」、簡単な質問・アンケートから得た情報を収集可能な「クリッカー機能」、学生個人の質問や意見を先生に直接発信し、さらに匿名投稿もできる「コメント機能」を、リアルタイムに活用することができます。そのほか、①「アンケート機能」②「授業参加状況確認」③「授業評価解析」なども搭載され、教員はそれぞれの機能を選択し、使用できます。教室で可視化する講義だけでなく、新型コロナウイルスの影響でオンライン授業を実施している学校においても、講義が行われることができます。さらに「Google Classroom」との連携も可能としています。</p> <p>■開発の背景</p> <p>現在の大学の講義は、1名の教員が複数の学生に対して行う「1対多」の講義形式が一般的となっています。この形式の場合、学生は講義の内容が理解できなくても、質問がしにくく、また質問することで講義が中断したり、他の学生に迷惑をかけたという感覚から、理解していくよりも質問せずに授業を終る傾向にあります。特に理系大学の中級クラスでの講義においては、その傾向が強く見られます。こうした状況を受け、大阪電気通信大学とスカネット株式会社で共同研究を実施。教員が各学生の理解度に合わせた講義を進めることができるよう「講義の実況化」を目指し、授業中の学生の理解度や集中度をリアルタイムで集計できるシステムを開発しました。本学は主幹者、設計・一部構築部分に参加しています。</p> <p>■本学の情報教育の取り組み</p> <p>本学では、1978年に日本初の試みとしてPCを用いた教育システムを開発し、また、スタンダードローニングのPCを数十台設置した演習室において、科学的根拠に基づいた教育理念を元に、情報教育施設での指導方法や学習の方法、その補助にいたるまでのシステムを開発してきました。特に、学生本人に設置されているモニタTVに、教員のコンピュータ画面・特定の学生のコンピュータ画面・書画カメラ・ビデオ映像などさまざまな映像が映し出し、教員一人に対して複数の学生を教育する「1対多」の教育環境で、協力「1対1」の教育環境を実現する教育方法は「電通大方式」と呼ばれています。このように本学では、1978年より教育分野の情報化の先駆者として社会に貢献してまいりました。この度、この「電通大方式」のDNAを受け継いだ、今の潮流に合ったシステム「Lectures」を共同開発し、11月より公開、販売が開始されています。</p> <p>■今後の運用について</p> <p>「Lectures」は、本学の医療健康科学部において導入を開始し、大学の恒常的・継続的な「教育の質の保証及び向上」を目指します。なお、大学での講義にとどまらず、オンラインによる授業や教育現場のICT化が進む、小学校や中学校、高校に至るすべての教育機関においても利用することができます。</p>
<p>機械工学科の星野実任教授が職業訓練教材コンクールにて厚生労働大臣賞（特選）を受賞しました</p>	<p>12月4日（金）、令和2年度職業訓練教材コンクールにて「厚生労働大臣賞（特選）」を受賞した機械工学科の星野実任教授が「大石利光理事長・学長から表彰された」。</p> <p>職業訓練教材コンクールは、人材開発に携わっている方々が、各現場や実践の場において、日々の「創意工夫」により開発した「教科書」や「映像・シミュレーション」などの様々な「教材」について、「訓練教習時の実践教材が使用による訓練効果の向上に貢献する」となる訓練教材として、応募者から優秀な教材を選別し、広く人材開発関係者に広く周知広報・普及することで、訓練指導技術・技能水準の向上を図り、人材開発の推進や向上に資することを目的として1973年度より実施しています。「教科コンクール」は今回で第25回目を迎えました。</p> <p>今年の応募教材作品数は過去最大となる総数108件でしたが、今回星野実任教授は最も優秀な教材に選ばれた「厚生労働大臣賞（特選）」を受賞しました。</p> <p>教材作品名：遠隔訓練も可能な射出成形型設計教材 作成者氏名：星野 実 渡辺 幸治（大阪府立北大阪高等職業技術専門学校） 津島 一之（北陸職業能力開発大学校） 青藤 統一（関東職業能力開発促進センター） 瀬川 祐介（北海道職業能力開発促進センター）</p>
<p>SDGsをテーマとした「学生英語プレゼンテーションコンテスト2020」に本学学生が参加しました</p>	<p>SDGs達成に向けて様々な角度からの提案を英語で発表する「学生英語プレゼンテーションコンテスト2020」（主催：特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪/後援：大阪府）が12月6日（日）、大阪府立大学（大阪府西区）で行われ、本学の学生が参加しました。</p> <p>同コンテストには大阪府内の大学から26件（個人10名 16チーム）の応募があり、予備選考を経て14件（個人3名 11チーム）が選出されました。選ばれた学生の国籍は日本をはじめベトナム、中国、インドネシア4か国、個人や2-4人組のチームが2つの発表テーマから1つを選び、英語で発表しました。</p> <p>発表テーマは①「おさかプラスチック」ごみゼロ宣言実現のために学生ができることと②「大阪モデル」スマートシティの実現に向けた学生の提案。本学総合情報学部デジタルゲーム学科3年 百武元次さんと情報通信工学部情報工学科3年 古賀真人さんのチーム「GHGs」はテーマ②を選択。20分間の持ち時間で、最先端技術を活用した「持続可能な都市」を持続するための提案を流暢な英語で発表しました。</p> <p>プレゼンでは大阪が持続可能な都市になるために必要であると同時に、独自の「大阪モデル」にフィットする2つのテクノロジーを提案。「一つは下水から水素を作る技術、二つはごみからエネルギーに転換する技術。これらの技術を活用して化石燃料に代わる新たな資源を産出することで、CO2の排出抑制につながる」と期待しています」と持論を展開しました。</p> <p>互いにキャンパスが離れている2人は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今回のプレゼンに向けての準備はオンラインを通じて進めてきました。「大学のオンライン授業に慣れたこと、比較的にスムーズに見聞調整やパワーポイントの作成ができました。大会に出場してみても、英語で自分自身の考えを伝える難しさを感じると同時に、学外の多様な学生の視点に触れることができて、良い経験になりました」と話していました。</p>
<p>兼宗准教授ICT社会教育センター長代理が、京都府立高校の数学教員向けの講演を行いました</p>	<p>12月4日（金）、ICT社会教育センター長代理の兼宗准教授（工学部電子機械工学科）が、オンラインで行われた「京都府高等学校数学教育課程専門部 研究大会」で講演を行い、「コンピュータサイエンスアンパグドの手法を使った2進数の指導」をテーマに、高校での数学教育の中での2進数の指導方法について、教員の方の実演指導を交えて解説しました。</p> <p>当日は京都府立高等学校で数学を担当している、多くの先生方にご観覧いただくことができました。</p> <p>本学では、これまで培ってきたノウハウをベースに全国の初等中等教育におけるプログラミング教育をサポートするため、新たに「ICT社会教育センター」を設立し、地元寝屋川市や四條畷市、守口市、大阪府をはじめ茨城県の各教育委員会と連携協定を締結し、超スマート社会（Society5.0）の到来に備えた人材育成に貢献しています。</p>

<p>工学研究科の大学院生が協力したTV番組「池の水ぜんぶ抜く大作戦」が12月20日（日）に放送されます</p>	<p>工学研究科の大学院生と環境科学科の田中孝徳講師が協力したTV番組「緊急SOS！池の水ぜんぶ抜く大作戦」が、12月20日（日）に放送されます。</p> <p>この番組は、池の水を全部抜いてそこに潜んでいる生物を調査するというドキュメントバラエティ番組で、今日のロケは、30年以上放置されゴミが目立つ池をきれいにすることを目的に、文野市立教育文化会館前の「久池」で行われました。ヘドロの中から謎の巨大魚や、意外な希少な生物が発見されたり、危険なゴミの撤去など、本学学生が奮闘しています。ぜひご覧ください。</p> <p>番組名：「緊急SOS！池の水ぜんぶ抜く大作戦」 放送日：12月20日（日）18:30～ 放送局：テレビ大阪 ※放送日、放送内容は変更することがあります</p>
<p>日本経済新聞に矢ヶ崎善太郎教授のコメントが掲載されました</p>	<p>1月10日（日）の日本経済新聞朝刊12面に、本学の矢ヶ崎善太郎教授（工学部建築学科）のコメントが掲載されました。</p> <p>「伝統建築の基盤をなす木の文化（文化時評）」（日本経済新聞） https://webreprint.nikkei.co.jp/r/C1C4EE23840B4661AA89A1646A158904/ ※記事の著作権は日本経済新聞社に帰属します。無断転載不可 本ウェブサイトへの掲載承認済みです。</p>
<p>兼宗進ICT社会教育センター長代理が「オンライン高校IT活用セミナー」で講演を行いました</p>	<p>1月15日（金）、ICT社会教育センター長代理の兼宗進教授（工学部電子機械工学科）が教育家庭新聞社主催の「オンライン高校IT活用セミナー」で講演を行い、「プログラミング教育の展望～小中学校から高等学校への連携」をテーマに、2020年度から開始された新教育課程での小中のプログラミング教育の流れと、来年から高校に新設される情報科目である「情報I」「情報II」の内容、そして大学入学共通テストで出題が検討されている情報科目などについて解説しました。</p> <p>100名を超える参加者からは、高校の情報科と数学科の連携についての質問や、本学が東京農工大学と明星大学で共同開発しているオンラインプログラミング学習システム「Bit Arrow」についての質問などがあり、関心の高さが伺えました。</p>
<p>建築学科の授業で制作した廊材を使った道具収納棚を「寝屋川市立中央幼稚園」に贈呈しました</p>	<p>工学部建築学科2年生の学生らが本学に隣接する「寝屋川市立中央幼稚園」に「インテリア計画」（北澤 誠准教授）の授業で設計・制作した道具収納棚を贈呈しました。</p> <p>この取り組みは地域貢献・地域連携の一環として昨年度から行われています。</p> <p>今年度は、寝屋川キャンパス大規模リニューアルに伴い取り壊し予定のE号館で過去に使用されていた講義机と講義椅子（1978年設置）の廃材を利用した、園庭の道具置き場に設置する収納棚を設計・制作しました。</p> <p>昨年10月に行ったプレゼンを経て、建築学科2年生の若間建人さん、宮部彰乃さんのアイデアを元に制作を進めました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、木工室への入室人数を制限するなど制約がある中での作業にはなりましたが、実務サポートの協力を得てイメージ通りの棚を製作することができ、学生たちにとって木工の楽しさを感じる機会となりました。</p> <p>1月14日（木）、15日（金）に完成品の搬入作業を行い、園児の皆さんが楽しくお片付けできる空間が完成しました。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、園児の皆さんに直接贈呈することはできませんでしたが、学生たちは園児の喜ぶ姿を想像しながら、達成感でいっぱいの様子でした。設計を担当した若間さんは「上のスペースを有効活用しながら、園児が取りやすいように設計しました。学童保育でのアルバイトの経験を生きて、子ども目線になって考えました。デザインは宮部さんのアイデアを取り入れて動物のモチーフで装飾。講義椅子を屋根に見立てて、お店さんのような楽しい雰囲気になりました。」と話してくれました。</p> <p>受け渡しの際には、学生や北澤准教授より取扱いに関する説明書をお渡しし、安全に使っていただけるように口頭でも説明を行いました。幼稚園の先生方は、学生たちのアイデアや細かい作りで感動した様子で、新しい収納棚の完成を喜んでいただくことができました。</p> <p>本学で42年間の長い間、学生の学びを支えてきた講義机と椅子が、建築学科の学生たちの手で新しく生まれ変わり、これから子どもたちの成長を見守ります。</p>
<p>兼宗教授と本学大学院生が情報教育についてのオンライン研修を行いました</p>	<p>2月8日（月）に、埼玉県の高等学校の教員53名を対象とした研修で、ICT社会教育センター長代理の兼宗進教授（電子機械工学科）と本多佑希さん（工学研究科博士後課程制御機械工学専攻 兼宗研究室2年生）、添原宏志さん（工学研究科修士課程制御機械工学コース 兼宗研究室1年生）が「情報オンライン研修」の研修を行いました。</p> <p>研修前半では、兼宗教授が小学校からどのようにプログラミングを取り入れられていき、来年4月からの新教育課程で、高等学校ではどのようなプログラミングが授業で扱われるかといった講義を行いました。</p> <p>研修後半の学習形式では、本多さんが講師役を担当し、兼宗教授が東京農工大学と明星大学とで共同開発したオンラインプログラミング環境「Bit Arrow」を使い、文部科学省の教員研修資料でも採用されているプログラミング言語「Python」や、兼宗教授が教育用に開発したプログラミング言語「ドリトル」を用いたプログラミングを学習しました。</p>
<p>公開教養講座「この日は講座 ～ことばの万華鏡を覗く～」を開催しました</p>	<p>3月3日（水）、10日（水）、17日（水）の3日間、公開教養講座「この日は講座 ～ことばの万華鏡を覗く～」をオンラインで開催しました。</p> <p>この講座は地域の英語文学や文化に関心をお持ちの方を対象に、本学英語教育研究センターが開催するものです。新型コロナウイルスの影響により、開催を1年延期し、初の試みとしてオンライン開催となりました。</p> <p>第一回のテーマは「教養小説として『赤毛のアン』を読み直す」。同センターの杉村寛子教授が講師となり、アニメーションやミュージカル、ドラマ化などされられる『赤毛のアン』を教養小説の観点から読み直しました。文学作品としての価値と、大衆性について考える機会となりました。</p> <p>2020年に生誕130周年、デビュー100周年を迎えたアガサ・クリスティ。第二回は「アガサ・クリスティの詩」をテーマに、同センターの松田真准教授が講師となり、ミステリー作家として著名な彼女が残した詩を読み解きました。多くのファンがいる『ミステリーの女王』の詩の世界をさしみました。</p> <p>第三回のテーマは「三島由紀夫『金閣寺』を読む 一語語と訳の比較から見えてくるもの」。同センターの上畑公明教授が講師となり、三島由紀夫の傑作『金閣寺』を、翻訳家アイヴァン・モリスの英語版と比較しながら、翻訳家の訳し方や工夫について、日本文学の翻訳事情にも触れながら解説しました。</p> <p>3日間に渡り、多くのご参加をいただき、ありがとうございました。 次回以降の公開教養講座も、ぜひご期待ください。</p>
<p>学生らが『SDGs探求AWARDS 2020』で優秀賞を受賞しました</p>	<p>一般社団法人 未来教育推進機構が主催する『SDGs探求AWARDS 2020』で、本学の『異分野協働エンジニアリングデザインプロジェクト』チームが優秀賞を受賞しました。</p> <p>今年度開催された『異分野協働エンジニアリング・デザイン演習～学科横断型プロジェクト～』は、工学部4学科（電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科、環境科学科）と情報通信工学部通信工学科の合同開講科目（3年次）、異なる学科の学生がチームを構成し、チームワークの大切さに気づきながら、プロジェクト活動を実施しました。その中の一つのグループ（チーム3）が提案したアイデアが、今回優秀賞に選ばれました。</p> <p>■活動の様子はこちら https://www.osakoc.ac.jp/news/2020/2188</p> <p>『SDGs探求AWARDS』は、『世界の国や地域におけるSDGs達成のために、私たちができる、または実施しているアクションについて』をテーマに、アイデアを募集。今回受賞した『異分野協働エンジニアリングデザインプロジェクト』チームは、『生物模倣技術による新しい製品の開発』として、猛禽類の羽を模倣した空力特性を活かして、ドローンやプロペラの騒音防止提案。騒音防止とスピードを両立させるため、2種類の部品を取り付ける工夫をしました。創意工夫やアイデアが評価され、総数1953件のエントリーの中から、学生部門の優秀賞4作品の中の一つに選ばれました。</p> <p>3月21日（日）には、オンライン表彰式が開催され、改めて受賞した作品のプレゼンテーションや、審査員による講評などが行われました。リーダーの廣瀬さんは「多くの大学が参加する中、優秀賞をいただいたことは、とても驚きましたし嬉しかったです」と受賞の喜びを話しました。</p> <p>後日、学生らは大石光理理事長・学長のもとを訪れ、受賞を報告しました。大石理事長・学長は学生の努力を称え、モノづくりについて積極的に意見交換が行われました。</p> <p>また、現在寝屋川キャンパスJ号館2階の0ECU Museでは、『異分野協働エンジニアリング・デザイン演習～学科横断型プロジェクト～』の研究結果を展示中です。</p>
<p>おうちDE1？理科実験教室がオンラインで開催されました</p>	<p>震災復興ボランティアの一環として本学の学生たちが取り組む「おうちDE1？理科実験教室2021」がリモートで開催されました。</p> <p>この実験教室は2016年から工学部環境科学科の学生たちが福島県馬郡新地町に向き、地元の小中学生を対象に開催。青藤安貴子教授監修のもと、子どもたちに科学や自然の不思議を楽しみながら学んでもらおうと、様々な実験を展開してきました。</p> <p>昨年はコロナ禍で開催が中止となりましたが、今年は「WEB上であれば実験に参加してもらえるのでは？」とイベントの実施が決定。「人工イクラを作ろう！」「黒ペンの色を分けよう！」「夜になると光るキーホルダー」の3つのテーマで実験・解説を行い、総合情報学部ゲーム&メディア学科の由良研究室の学生たちが撮影を行いました。収録した動画は後日、編集してYouTubeに配信すると同時に、新地町の小中学生には実験キットを送付。子どもたちは自宅動画を見ながらキットを使って保護者の方と一緒に実験に参加してもらいました。</p> <p>後日、3年生の児童の皆さんが一生懸命実験に取り組む様子をお送りいただきました。 リモートでも楽しんでいた様子を撮影や準備などに取り組み、学生にとっても貴重な経験となりました。</p>